

京都〈ゆうゆうの里〉入居者インタビュー

仲間が楽しい時間を過ごしてくれるなら一番嬉しい

仲嶋道明様(80歳)・和子様(81歳)

今回は開設当初からご入居の仲嶋様ご夫婦にお話を伺いました。

「子供に依存しない。だから真剣に終の棲家探し」

(ご主人) 48歳の時に、3ヶ月入院することになり、老後に不安を感じた。その頃、雑誌で老人ホームを知り、自分の中で老人ホームという選択肢が出てきた。定年間に近になり本格的に入居を検討し、当時、関西にある老人ホームをすべて見学した。現役時代は、化学分析の仕事をしていたので、一つのことを追究することは好きだった。そのせいもあって、老人ホーム探しにも熱が入った。

子供はひとり娘だから、娘の旦那さんの両親と自分達の合計4人の親を娘が介護することになって



仲嶋様ご夫婦

しまう。かわいい娘にそんなことさせたくないからね。老後こそ自分達は自立した生活をしようと考えていた。

「里の生活には安心感がついてい

る」  
(奥様) 老人ホーム⇨養老院というイメージだったから入居するなんて最初は嫌だった。でも、ここ

を見学して、養老院なんて感じは全然なかった。これまでと同じ生活が続けられそうだから良いと思った。今では家事も毎日ちゃんとして忙しくしてるわ。

入居してすぐは、生活に慣れなくて困ったけど、たまに娘と食事をしたりして、徐々に里での生活に慣れていくことができた。

診療所にお医者さんが常についてくれるし、こんな安心感は自宅に居たらないからね。



ハンドベルサークルの様子

「ハンドベルの演奏に感動し、サークル立ち上げ」

(ご主人) ここが開設して間もな

い頃に、佐倉〈ゆうゆうの里〉からハンドベルサークルが来てくれて演奏してくれたんだ。その演奏にとっても感動してね。それがサークル立ち上げのきっかけなんだ。昔は、楽譜も読めなかったけど、一から音楽の勉強をして、今ではハンドベル用に楽譜を作ることが出来るまでになった。

(奥様) 主人はサークルの日が近づくと、パソコンに向かって楽譜を作っている。本当に頑張っていると思うわ。

(ご主人) サークルの仲間達が集まって、楽しく過ごせる場になること、そして仲間を増やしていくことがこのサークルの最大の目標であり目的だね。

◇ ◇ ◇  
仲嶋様の思いやりに私も幸せな気持ちになりました。これから人生を謳歌してください。